

平成 15 年度 第 1 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 15 年 5 月 15 日 18:30～20:30
市民活動サポートセンター

出席委員 12 名……新井、石塚、伊藤、江口、佐藤、柴崎、四分一、多田、田中、細川、松澤、横山
事務局 3 名……YMCA よこすかコミュニティサポート 高村、神山
市民生活課 山田

2 審議事項 (1) 委員長及び委員長職務代理の選出について
14 年度まで委員長、委員長職務代理だった新井委員、水谷委員に、1 年任期として、引き続き、委員長、委員長職務代理をお願いすることとした。

1 報告事項
次第に沿って報告を行った。
利用者ミーティングは、今年度は、7 月、10 月、2 月に開催することを承認した。

2 審議事項 (2) 夏の市民活動体験フェア、(3) 市民公益活動団体
提案どおり承認した。

[意見概要]

会議録について

(柴崎委員)

会議録は、一般への公表前に委員が確認できるか。

(事務局)

委員への事前確認はしていない。指摘があれば、その時点で加筆訂正等をさせていただく。

利用状況について

(江口委員)

利用状況のグラフは見にくいので、数値のみで良いのではないか。

(細川委員)

数値よりグラフの方がわかりやすいが、今のグラフだと、わかりにくいので工夫が必要である。

利用者ミーティングについて

(事務局)

15 年 1 月から毎月 1 回、テーマを設定して利用者ミーティングを実施してきたが、出席者が少なく、一昨日の利用者ミーティングで話し合った結果を踏まえ、今後は、3 ヶ月に 1 回程度とし、今年度は 7 月、10 月、2 月の開催としたい。

(江口委員)

設定されたテーマに関心があり、なおかつ出席しようという団体は限られてくる。サポートセンター利用についてを中心にした方が良い。毎月 1 回では努力の割に報われないので、提案どおりが良いと思う。いろいろなところで周知すると良い。

(松澤委員)

サポートセンターをよく利用するが、利用者ミーティングの存在を知ったのは最近である。早めに知ることができれば予定が組みやすく参加者も増えるのではないか。

(佐藤委員)

利用者からの声として、感謝の声が多いか、改善要望など不満の声が多いかによる。不満の声が多いのであれば、頻繁に開催すべきだが、利用者がある程度満足しているようであれば、3ヶ月に1回程度で良い。

(事務局)

使いやすい等の意見はたくさんいただいているが、サポートセンターとして対応が必要なものに限って、その意見と対応を受付横に掲示している。日々の要望等は、その都度対応しているため、要望のために利用者ミーティングに参加する人はいないようである。

(江口委員)

もともと、要望を出すことが目的ではなく、サポートセンター利用者間の交流が目的である。

(松澤委員)

テーマや分野を設定することで、交流が促進されるということもある。

(田中委員)

交流が目的であることをはっきりさせるため、「利用者交流ミーティング」としてはどうか。

(柴崎委員)

同感である。利用者交流フォーラム等、何のための会かをはっきりさせた方が良い。回数は何回もやらなくても良いが、PRは大切である。ボランティアグループの交流としては、のたろんフェアがあるが、そのミニサイズのようなものをやるのも良いのではないか。

(新井委員)

今日の議題にもあるが、夏の市民活動体験が、利用者交流の1つでもある。

(多田委員)

4月の利用者ミーティングに参加したが、利用者ミーティングだから参加しようと思ったのではなく、テーマが市の市民まちづくりサポーター保険だったため、説明を聞こうと参加した。

夏の市民活動体験について

(細川委員)

救急の活動をしているが、一般の参加者を受け入れるためには、通常の活動とは別にプログラムを組む必要がある。フェア参加のために別プログラムを作り、当日やってみたら、誰も来なかったというようなことがあると困る。何人来るか事前にわかれば、プログラムが組みやすい。

(事務局)

申し込み制にすれば、事前に人数を把握できるが、募集、申し込み受付等は各団体が行う。フェアに参加すれば、参加者が確保できるということではない。

(新井委員)

各団体が自分たちで広報や申し込み方法を工夫する必要がある。それが市民活動である。交流サロンに体験コーナーを設けることは、8月の利用者が比較的少ないことも考慮したものか。

(事務局)

そのとおりである。

(四分一委員)

交流サロンは外からも見やすく参加しやすい場所ではあるが、通常の利用がしやすいのも交流サロンである。

(事務局)

通常の利用になるべく支障のないよう、キッズルームに向かって右側の奥の一角を考えている。

(細川委員)

フェアとしてアピールするのであれば、よく見える目立つ位置の方が参加しやすいのではないかと。

(事務局)

予約なしでいつでも使えるという通常の利用に支障がない範囲で考えたい。

市民公益活動団体について

(江口委員)

No.54 の大正琴の団体は、活動内容に老人施設でのボランティアとあり、公益団体と思うがどうか。

(事務局)

何も印がない団体は、活動のわかる資料提出がまだなされていないため、公益判断をしていない団体である。

(新井委員)

No.190 写真展「イラクの子どもたち」実行委員会は、終了しているのではないかと。No.453 横須賀の福祉を推める会は特定非営利活動法人である。

(事務局)

実行委員会形式の団体には、解散予定日が決まっていれば、登録時に聞いておき、その時点で削除するようにしているが、再確認する。

(田中委員)

利用団体リストを見て、これだけの団体があるのに驚き、参加してみたいと思う活動も多かった。このリストを多くの人が見られるように一覧表にして公表してはどうか。

(事務局)

サポートセンターのパソコンにはデータベースを用意し、分野で検索できるようになっているが、紙ベースについても、今後、検討したい。

(新井委員)

スタッフに負担がかかるようなことは、なるべく避けたいと思っている。市民活動団体は、代表者変更や新規登録、解散などが頻繁にあり、かなり大変な事務量になっている。

その他

(新井委員)

サポートセンターの開館時間については、午後 10 時までとなっているが、「(仮称)市民活動サポートセンターのあり方について(報告書)」に、利用状況により見直しが必要となっている。今後の運営委員会の課題としていきたい。

(江口委員)

午後 10 時までの開館で定着しており、維持したいと思う。

(多田委員)

サポートセンター周辺の治安が乱れていることも考慮し、検討が必要である。

(江口委員)

以前、スタッフの専門分野等を似顔絵入りで紹介したものを掲示していたが、最近見かけない。現在のスタッフのものを作成して、ぜひ掲示してほしい。

(田中委員)

追浜のサポートセンターは役所屋の中にあり、わかりにくい。「ボランティア活動にどうぞ」などと看板を付けるなりして、使える場だということをアピールした方が良い。パンフレットラックもサポートセンターの部屋の中にあり、目立たないので、部屋の外に出してほしい。また、チラシやポスターを掲示できるような場所が役所屋にあれば、団体の活動をアピールできて良い。

(事務局)

パンフレットラックの位置について、役所屋追浜店と話し合ったが、親子サロンを併設しているため、子どもが多く、転んだりする恐れがあり、サポートセンターの外に出すのは難しいだろうということになった。扉を開けておくなど、対応を検討はしてみるが、市民活動専用の施設ではないため、難しいところである。

(江口委員)

最近、カタカナ表記が多く、意味がわからない。一般に広く理解できるよう、サポートセンター関係の事業や資料等でも平易なわかりやすい言葉を使うよう心がけてほしい。

(石塚委員)

利用団体リストに多くの団体があり驚いた。これらを含め、サポートセンターでのさまざまな情報を地域に伝えていきたい。

(伊藤委員)

サポートセンターのような施設があっても、関心がないとなかなか入っていかないし、関心があっても入ってみるには勇気がいる。利用者がその良さを伝えていく必要がある。